


「ふね遺産」(推薦様式):「箱根丸」

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物:「箱根丸」日本初の新造コンテナ専用船 建造者:三菱重工神戸造船所 所有者:日本郵船株式会社	
2. 対象物の作成・存在時期	昭和43年(1968年)2月19日に三菱重工神戸造船所において起工、5月17日に進水、8月27日に竣工した。日本初の設計建造されたコンテナ専用船で、コンテナ積載能力は752TEUである。コンテナ荷役により特に寄港地での停泊日数が激減し、従来1航海に約80日かかった太平洋航路を約30日で運航可能となり、海上輸送革命と言われるほどの効率化につながった。1978年12月12日に「ぱしふいっくえくすぷれす」と改名し、韓国とアメリカの航路へ配置転換され、1980年3月19日に韓国へ売却され、1986年に解体された。同型船に榛名丸がある。	
3. 現状 (写真添付)	現存しない 図面類(日本郵船歴史博物館)箱根丸所蔵品資料添付 箱根丸模型(縮尺1/100)(神戸海洋博物館寄託/日本郵船所蔵)	
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】 (1) 物資を輸送する船舶 【認定基準】 (1) 新規の技術を与えたもの及び(4) 技術の進歩・改良に大きな一段階となったもの	
5. 歴史的・工学技術的意義	* 歴史的意義 高速定期貨物船によって輸送されていた一般雑貨の海上輸送を海陸一貫による飛躍的進展に結びつけた流通革命と称されるコンテナリゼーションの先端的役割を果たした我が国のコンテナ専用運搬船第1番手となった船。昭和海運とジョイントシマトソン社と組んで weekly service を PSW 航路(Pacific Southwest、カリフォルニア航路)として開設。 * 工学的・技術的意義 1) 高速定期貨物船を凌駕した大型化高速化に対応した船型とそれに関連し主機関及び軸系プロペラなどを開発実用化。 2) 箱型のコンテナ積載に適した大開口を有する特殊構造に対応した構造配置・強度確保、特に縦強度の確保・捻り剛性の維持・疲労強度や振動問題などの多岐に亘る配慮。 3) 厳しい工作精度の要求に応じた適切な工作法検査法確立。 4) 省力・省人に応じた合理化を織り込みながら厳しいスケジュール確保に応える信頼性のある船としてまとめ上げた。	ふね遺産箱根丸補足説明を別紙として添付。
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	1) 資料1:「船の科学」1968年12月 2) 資料2:ふね遺産「箱根丸」補足説明 3) 資料3:コンテナ船箱根丸所蔵品 4) 資料4:箱根丸模型(神戸海洋博物館)	

(\*) No.は学会で記載します。

(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。